

令和元年度第1回総合教育会議

里山体験学習林購入および整備について

教育委員 服部 保

1 里山体験学習

兵庫県は小学校3年生の「環境体験事業」と小学校5年生の「自然学校推進事業」を進めている体験学習の先進県である。川西市はこれらの事業に加えて、他市町では実施していない小学校4年生の体験学習である「里山体験学習事業」を実施している。本事業によって小学校3年生の小学校区内の身近な自然・農業等の体験（環境体験事業）、4年生の川西市内の優れた里山の自然・農業等の体験（里山体験学習事業）、5年生の兵庫県内の優れた自然等の体験（自然学校推進事業）が有機的に体系化され、体験学習の効果を上げてきた。また本事業によって市内の子供達だけではなく、市民にもふるさと川西意識を醸成させてきた実績は大きい。

2 里山体験学習林の整備

小学校4年生の里山体験学習事業が大きな効果を上げてきたが、その体験学習を実施する里山林そのものの整備が不十分であった。里山体験学習を行う上での中核となる樹林が必要と考えられる。黒川字大谷の里山林（以下 大谷里山林）は市内でもっとも優れた台場クヌギより構成され、県道や妙見ケーブル駅にも近く利便性も良好である。大谷里山林を小学校4年生の里山体験学習林として購入していただき、整備を進めるようぜひお願いしたい。なお、本地域一帯の里山林の重要性はすでに日本一の里山林と言われているように日本一であることに間違いはなく、文化財としては市内の加茂遺跡に相当するかそれ以上のものである。埋蔵文化財が国、県市で保全・活用が進められているように、自然の文化財であり、きわめて重要な大谷里山林の保全・活用は市によって進めてゆくべきものと考えられる。

3 里山体験学習林の今後のあり方

大谷里山林はすでに天然記念物に指定されている黒川字奥瀧谷の台場クヌギ林よりもクヌギの株数、面積等は優れており、天然記念物の価値は十分あり、今年度中に指定の申請を予定している。天然記念物の指定や里山体験学習林への方向性が明確になれば、兵庫県阪神北県民局の北摂里山博物館運営協議会の支援のもと、北摂里山博物館の中核施設としての位置づけや北摂里山大学演習林としての活用も進めてゆくことが可能となる。また川西市民の里山林保全への意識は非常に高く、すでに里山整備の担い手として市民ボランティア団体が立ち上がっている。

4 購入のための予算

令和元年よりパリ協定の枠組みの下における国内の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から森林環境譲与税が創設され、川西市にも600万円程度すでに譲与されている。間伐や人材育成・担い手の確保、普及啓発等の森林整備、木材利用等が主な用途とされているが、森林環境教育の場として活用する場

合は土地の購入も可とされている。里山体験学習林用地としての購入はまさにこの事例に合致し、兵庫県の担当部局にたずねた結果でも、このような場合の購入は問題なしとの回答を得ている。

森林環境譲与税および森林環境税は今後 10 年以上続くことから、まず第一は日本一の里山のモデルとなる大谷里山林の購入をお願いしたい。さらには市内に残存する放置されている里山林や人工林の整備を進めていただきたい。

5 観光資源としての黒川

黒川には日本一の里山林としてのクヌギ林が存在する他、現在も生産が続く炭窯、黒川小学校舎、大谷鉦山跡、妙見の森ケーブル・リフト、能勢妙見山、ダリヤ園、知明湖キャンプ場などがある。これらに加えて、妙見山のブナ林、5ヶ所にも及ぶエドヒガン群生地、生物多様性保全拠点など観光資源は非常に多い。しかしこれらの資源はほとんど活用されていない。教育委員会としてはこれらの資源の文化財指定（天然記念物も文化財の一つ）を進めている。

6 学校教育と社会教育の体験学習における連携

川西市では体験学習の体系化がされ、多大な効果が得られていることを示してきたが、その効果は体験学習への市民ボランティアによる支援によるものが大きい（特に水明台、清和台、黒川において）。社会教育プログラムの中に学校教育の体験学習への支援に関する講義科目の開講および社会教育で学んだことを学校教育へと生かすシステム作りが必要である。川西市は市民の学習意欲が非常に高く、社会教育で行われている多くの講義にたくさんの市民が学んでいる。それらの市民の活力を学校の体験学習支援に回していただくよう努力したい。

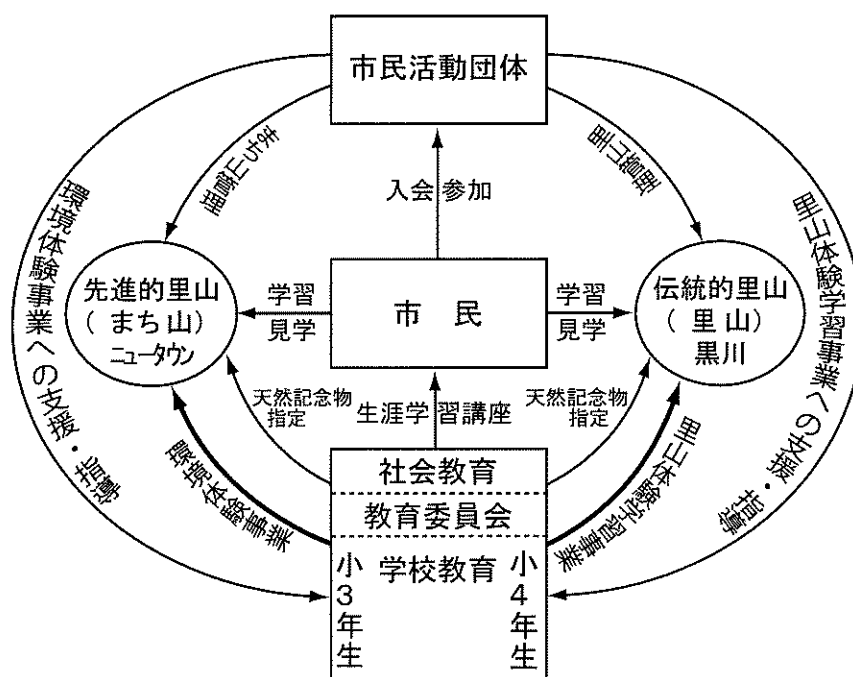


図1. 里山保全, 市民活動, 天然記念物指定, 生涯学習 (社会教育), 体験学習 (学校教育) の連携